

研修トレーナーの1Patient体験記⑨

こんにちは。製薬企業向けのトレーニングを担当している、Nです。

「1Patient」を研修ツールとしてどのように有効活用するか、日々考えています。

1Patientについて、ここまで様々に書かせていただきましたが、製薬企業にとっての訴求すべきところは、薬剤の処方状況ですよね。1Patientでは、症例検索の画面で薬剤名を入れ検索することで処方症例を検索できます。関連する症例が出てきたら、症例の表題を選択（クリック）すれば、症例の詳細が表示されます。表示画面の右上には複数のタブが現れますので、「投薬」を選んで、処方状況を調べたい薬剤を選ぶと、その薬剤についての処方開始時期、処方期間が表示されます。また、当該の症例に処方実績のある薬剤がプルダウンで表示されるため、併用する薬剤、他の薬剤との切替時期などを確認することも可能です。

各疾患に対する同薬効の薬剤は複数存在しますから、競合他社の製品に変更された背景も、処方が変わった時期の医師所見などを確認すれば、理解が進むかもしれません。もちろん、検索された症例の内容をすべて、各MRの担当される医療従事者と一概に重ねられません。ケーススタディとして、どんなきっかけで薬剤が変更されているのか、ある程度の理解の上で活動ができることは、大きなアドバンテージだと考えています。トレーニング担当者から1Patientの活用法としてそのようなアドバイスを添えても良いですよ。実際は何より、MRの皆さんの学習意欲や活用姿勢によるのですが。

前述の「投薬」タブの並びには、『症例メモ』があります。こちらを選択すると、医師監修の下、主病についてのサマリーが確認できます。現時点ですべての疾患と症例について記載されているわけではありませんが、記載済の症例では各症例の治療経緯がまとめてあります。併せて考察が載っていますので、医師所見では理解が難しいところもポイントをつかみやすそうです。

同じく並んでいる『検査値』のタブを選び、治療を進める中での各検査値をプルダウンから選択すれば、治療経過に沿った各検査値について確認することができます。他の項目と合わせ、1Patientの中での検索の組み合わせで、治療・病状の進行と検査値の推移を確認することができるのです。医療従事者との対話の中でも、このような知識を備えていれば、一目置かれるMRが育っていくでしょうね。

今回は1PatientとMRトレーニングについてのまとめをさせていただきます。

トレーナーNの略歴

『まもなく五十路を迎える男性トレーナー。製薬企業における人材育成・研修担当として20年以上、MRの育成にかかわる。MR・マネジャーの成長が何よりの喜び。』